

第16回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 まちづくり推進部会 主な意見

開催日時：令和元年8月28日（水）10:00～12:15

開催場所：大宮区役所6階 601会議室

出席者

選出区分	役職等
学識経験者	東京大学 工学部都市工学科 教授 窪田 亜矢
地元 まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 副会長（代理）
地元 まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 副会長
地元 まちづくり団体	大門一丁目駅前まちづくり協議会 会長
地元 まちづくり団体	大門一丁目駅前まちづくり協議会 副会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 専務理事
関係行政機関	さいたま市 都市局 都心整備部長
関係行政機関	さいたま市 大宮区 副区長
デザイン コーディネーター	アーバンデザインセンター大宮 副センター長
オブザーバー	都市再生機構（東日本都市再生本部 事業企画部）事業企画課 主幹

■まちづくりガイドラインの検討状況について

【⇒事務局からの回答】

- ・ガイドラインの『都市空間形成の目標』が、上位にある『まちづくり戦略』につながっていないように思える。
- ⇒「まちづくり戦略」は、まちづくりガイドラインの中でどのような分野に力を注ぐのかを示すものになる。今後は写真や図も用いながら、大宮がどのようなまちを目指していくのかイメージが伝わる表現にする。
- ・『東日本の玄関口』としての地理やマーケットを、どのように大宮駅前のまちづくりに落とし込むかが重要である。大宮が、東北あるいは日本全体の構造の中でどのように貢献していくのか、そのための都市機能は何かという議論が必要である。
- ⇒「東日本の玄関口」にふさわしい都市機能については、まちづくりガイドラインの「都市機能」の項目で示した都市機能のうちのいくつかが各街区の中に入ることで、結果的に「東日本の玄関口」にふさわしい機能が集積され、それを受け止める公共空間にも緑や大宮らしい文化を引きついた空間を形成したいと考えている。

■構想実現案の検討状況について

【⇒事務局からの回答】

- ・駅前街区は、公共貢献の対価として、事業採算性を確保するためのインセンティブの付与を求めている。それに対して、自分たちのやりたいことができるのであれば公共貢献をするといった、JRのスタンスはおかしいのではないか。
- ⇒市としても今後 JR がまちにどのような貢献をするべきなのか、という点も含めて JR 側との協議の場を設けていきたいと考えている。
- ・JRの機能・空間の検討が駅前街区に影響を及ぼすにも関わらず、その議論をJR抜きではできない。JRにまちづくり推進部会へ出席してもらおう等、検討組織を変更してほしい。
 - ・JRや東武鉄道と可能であれば直接やり取りさせてもらいたい。
 - ・一定の公共貢献は想定しているものの、開発の事業性検証の結果によっては、現在の案の交通広場の区域は受け入れられないことになる。交通広場の検討と開発の事業性検証のタイムスケジュールが合うのだろうか。
- ⇒11月14日の第9回GCS推進会議において、構想実現案を第1案と第2案のいずれかに方向性を決めたいと考えている。その後、各地区や鉄道事業者との調整を経て、今年度末にGCSプラン（案）としてまとめる段階では、交通広場や新東西通路等の区域にある程度の目途をつけ、次年度以降、都市計画の手続きに入れるようにしていきたいと考えている。地区の検討スケジュールとの整合については、ある程度交通広場・交流広場の区域が決まった段階で検証に入っただけであれば良いと考えている。

- ・新東西通路の完成時期は、街のつくり方や順序に大きな影響を及ぼすため、早く提示してもらいたい。

⇒GCS プランの中に事業ステップや事業スケジュールを示す考えである。

- ・提示されている交通広場の規模は10～20年後も必要なのか。将来の技術革新を見据えた交通広場の在り方があるのではないかと。別用途への可変性についても議論すべき。

⇒バス停の集約化や将来的な用途転用の可能性についてまちづくりガイドラインに記載することを検討していく必要があると考えている。

- ・（仮称）アーバン・パレットは、デザイン性だけでなく、事業性（維持管理費等）についても考慮すべき。

- ・公共貢献については、①どの程度負担できるか、②公共貢献をすることで街がどうよくなるか、を4地区で議論しなければならない。①については、各地区でどの程度負担出来るか、全体としてどの程度を求めるか、の2つの視点がある。各地区で議論をしていただき、突き合わせていきたい。

- ・地上の多くを（仮称）アーバン・パレットの階段が占めており、交流の場となっているのかが疑問である。階段を設けるのであれば、エスカレーターを多く設置するべきである。

- ・中地区及び南地区の（仮称）アーバン・パレットは中山道を超えた大門2丁目まで延伸すべきである。

- ・地下街は大宮の発展のためにも整備すべきである。また、交通広場を地下に整備することで、地上がより良い歩行者のための空間となるのではないかと。

- ・中央通路の歩行者交通量が約1.2万人であるのに対して、新東西通路が約2.3万人と示されているが、これほど差が出るのか疑問である。再度検討してもらいたい。

- ・交通広場・交流広場の比較検討については、面積等の評価の他に、質的評価（広場に面するメリット等）が重要となる。